

平成28年度「経済的な困難を抱える子どもたちの学び支援活動助成」 助成先選考結果のご報告

第3回目となります2016年度「経済的な困難を抱える子どもたちの学び支援活動助成」につきまして、助成先が決定いたしましたので、ご報告いたします。

助成先団体及び対象となる事業（50音順）

助成先	申請事業名	助成金額
特定非営利活動法人 いるかねっと	学習支援マナビバによる福岡市・貧困連鎖解消のための2019年度第1期拠点拡大事業	1,960,000
一般社団法人 ぎふ学習支援ネットワーク	岐阜県内学習支援活動の中間支援および当該生徒の学業継続支援に関する事業	2,000,000
子どもの生活支援ネットワーク こ・はうす	サテライト型無料学習支援と軽食 提供事業	1,100,000
特定非営利活動法人 多文化共生センター大阪	地域で支えよう！外国にルーツを持つ子どもたちへの学習支援事業	2,000,000
特定非営利活動法人 長野県NPOセンター	信州全域の学習支援ボランティア養成・ネットワークづくり支援事業	2,000,000
HUG for ALL	児童養護施設の「養育・教育の質」改善事業 (タブレット教材を用いた学習支援とボランティアとの関係性構築)	1,010,000
特定非営利活動法人 場とつながりの研究センター	地域が育てる、子どもの自己肯定感を育む「居場所」機能を持ったまちの寺子屋運営と、その持続可能を目指した支援事業	1,200,000
認定特定非営利活動法人 浜松NPOネットワークセンター	はままつ子どもの学び支援&セーフティネット強化事業	1,920,000
一般財団法人 ヒューマンライツ協会	不登校・高校中退者のためのフリースペース マナビバ！	1,200,000
認定特定非営利活動法人 フードバンク山梨	困窮する子ども達への学習支援と食料支援の新たな支援モデル構築事業	2,000,000
特定非営利活動法人 まちの塾フリービー	貧困連鎖ストップ！高校中退防止夢プログラム2017	1,400,000
一般社団法人 みらいTALK	生活困窮家庭学習支援事業	1,058,030
特定非営利活動法人 ユースコミュニティー	経済的困難を抱える高校生の学習支援事業	1,500,000

計 20,348,030円

今回の助成について

- ・募集期間:平成28年11月18日～平成29年1月5日
- ・助成金総額:20,000千円以内
- ・応募数 :101件
- ・採択事業数: 13件
- ・金額: 20,348,030円
- ・選考委員会:助成選考に際しては、本テーマに関して専門的知見を持つ4名の選考委員(当財団理事1名と社外有識者3名)で組織する選考委員会にて、当財団の助成目的に基づき、厳正な審査を行った。

選考委員長からのコメント

本助成は、経済的な理由により学習環境に困難を抱える子どもたちの意欲を高め、学習に取り組む手助けとなる事業を対象としたもので、今回が3年目の実施となります。

子どもの貧困問題への社会的認知が広がる中で、様々な公的な支援や助成金等が設定されるようになってきたことを受け、応募が減ることも予想していましたが、実際には昨年をはるかに超える101件の応募となりました。

募集趣旨に即して厳正に審査を行い、13件を採択しています。当助成では、同じ事業で継続して申請があった場合でも、単年度の申請として審査をする設定にしていますが、結果として、昨年度と続けて助成対象となった事業もありました。

社会的な注目が広がってきたことで、これまで地域で取り組みがされてきた子ども対象の活動に加える形で、経済的困難な子どもの学び支援の事業を始める団体からの申請が多くありました。また、「子ども食堂」に学習機能を加える、学習支援の活動に居場所機能を加える、という形での事業領域を広げるための助成を申請される団体も多く見受けられました。

当財団ならではの支援の在り方として、その活動がモデルとなり、よい活動を普及することが期待できる事業を採択いたしました。

今後、助成先どうしの交流会や現場の視察などを通じて、情報共有をし、学びあい、連携を促しながら、共通課題に対して解決の糸口を見出していけるような取り組みも行っていきたいと思います。

公益財団法人ベネッセ子ども基金
理事・選考委員長
耳塚寛

【団体名】

特定非営利活動法人 いるかねっと

【URL】

<http://npo-irukanet.com/>

【申請事業名】

学習支援マナビバによる福岡市・貧困連鎖解消のための2019年度第1期拠点拡大事業

【メッセージ】

3回目の助成、本当にありがとうございます。

助成委選考委員の皆様、事務局の皆様、この基金に寄付を頂いた皆様に深く子供たちや団体を代表して、感謝の意を表させていただきます。

マナビバも、今春3回目の卒業生を送り出したところですので、本当にマナビバ事業の初期から、助成を頂いたこととなります。1期目は、福岡市西区の下山門でのマナビバ事業の継続で助成を頂きました。2期目は、下山門、福岡市の中心地である天神でのマナビバ事業への助成を頂きました。この3期目は、下山門、天神、そして、新しく開設する三拠点の計5か所でのマナビバ事業での助成となります。

私たちが活動する福岡市には、11万人の小中学生がいます。そのうちの22%に当たる3万人弱が要保護、就学援助世帯の子供たちとなります。いるかねっとでは、今年度、福岡市における教育格差の改善に取り組みます。教育格差の改善こそが、親から子へ、その子供たちが親になったときに続く貧困の連鎖を断ち切るものだと思っているからです。すべての子どもたちが平等に将来に希望を持てる社会の実現を目指し、自団体による10数か所の学習支援拠点の運営を実施を目指します。その第一歩となるこの事業は、私たちにとって大きな助成です。

少しでも、大きな成果を上げれるように、皆様に感謝しながら大切に日々の活動を大切にしながら実施したいと思います。

【団体名】

一般社団法人 ぎふ学習支援ネットワーク

【URL】

<http://gifugakushusien.com/>

<https://www.facebook.com/gifugaku/?fref=ts>

【申請事業名】

岐阜県内学習支援活動の中間支援および当該生徒の学業継続支援に関する事業

【メッセージ】

助成金採択、ありがとうございます。

私たち「ぎふ学習支援ネットワーク」は、地域ごとの小さなボランティア団体や子ども・若者支援を手掛けるNPOなど、地域での学習支援を実施している大小さまざまな団体のネットワーク組織です。学習支援を始めるに至った動機や、集まってくるメンバーの顔触れ、学習支援の会場や雰囲気もバラエティに富んでおり、それらの多様性と共通性をともに大事にしながら、日々の実践を積み重ねつつ、情報共有に努め、実践交流を行なっています。

一口に「学習支援」といっても、目の前の子どもたちに対して支援を実施するのみではなく、支援教室の維持・運営や発展にかかわる業務、支援スタッフの力量形成、子どもたちやスタッフの募集案内、市民啓発、学習の基盤となる生活支援など、活動を継続させていくためにはさまざまな取り組みが必要になってきます。それら周辺実務のうち、個別団体が個々に対応するよりも、ネットワークを組んで動いていく方が効率的でより適切な対応がなしうる場面は多々あります。そこに焦点を当てて立ち上げられたのが、「ぎふ学習支援ネットワーク」になります。

昨年度は、本事業助成により、上記のような各種ネットワーク事業を遂行することができました。なかでも新規の試みとして、さまざまな事情で拠点教室までは来られない子どもたちに対し、家庭もしくは近隣施設まで訪問して学習支援を行なうという活動にも着手することができるようになりました。より家庭生活に近いところで支援を行なうことで、教室で接するだけではなかなか見えづらかった生活課題にも触れる機会が多く、狭義の「学習」にはとどまらない支援の必要性を確認することができました。

そして今年度事業では、私たちの下で学び、中学を卒業し高校に進学していった子たちのサポートにも着手したいと考えています。以前より、高校に進学できたのはいいものの、うまく授業についていけなかったり周囲になじめず居場所を持てなかったりする子たちもいて、各現場で個別にサポートを継続してきました。学習支援事業が周知され、実施団体も増えてくるにつれ、徐々に卒業生の子たちの人数も増えてきていますし、さらには高卒後の進路相談という課題も出てきており、あらためて高校生に対するサポートのスキームを整備・確立していくことが必要になってきています。

そこで今年度は、各団体で実施してきた個別支援のケース・ノウハウを持ち寄り集約するとともに、そこで見えてきた支援課題に対応しうる体制を構築することを目指します。そこには、「学習支援」だけでなく、生活支援や就労支援など、地域の多様な資源とのつながりをいっそう強化していかなければならない課題も出てくることが予想されますが、今後とも、「子ども・若者が安心して学び、育つ」ことができる地域をつくっていきたいと思っています。

【団体名】

子どもの生活支援ネットワーク こ・はうす

【URL】

<https://www.facebook.com/cohouse073>

【申請事業名】

サテライト型無料学習支援と軽食提供事業

【メッセージ】

当事業へのご理解とご支援に厚くお礼申し上げます。

当会は、和歌山市北部を活動エリアとして、2015年1月に発足した団体です。

2016年度は月に6回のペースで、経済的困難や長時間労働、病気・障害等を背景に夜を子どもだけで過ごしたり、学習にとりくむ上で不利な条件を持つ家庭の子どもたちを対象に、夕食と居場所の提供を行ってきました。

今回の力強いご支援により、活動場所の数を増やすことができ、より多くの子どもたちとつながれることは、私たちにとって大きな喜びです。学生から70代まで幅広い年代のボランティアの交流や研修を重視し、スキルアップを図りながら、子どもたちに「学ぶよろこびと食事の楽しさ」を届けられるよう、より一層努めてまいります。

安心できる居場所と見守ってくれる大人たちの存在があれば、子どもたちはたくましく将来を切り開く力を発揮します。当事業を契機として、地域の子どもたちを見守る温かいネットワークを広げていきたいと考えています。

どうぞ今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

【団体名】

特定非営利活動法人 多文化共生センター大阪

【URL】

<http://tabunka.jp/osaka/>

【申請事業名】

地域で支えよう！外国にルーツをもつ子どもたちへの学習支援事業

【メッセージ】

日本では1990年の入管法の改正により日系3世まで就労可能な地位が与えられ、これにより主にブラジル、ペルー出身の日系人の来日数が増加しました。大阪市西淀川区はそのような背景から来日した南米出身者が大阪市内で1番多い地域であり、大阪市内に住んでいるブラジル人のうち約21%、ペルー人のうち約35%が西淀川区に居を構えています。

当センターの調査の結果、90年代に来日した日系人の2世代目にあたる者たちが現在親となり家庭をもっていることがわかりました。2世代目にも拘わらず、日本社会とのつながりは薄く、当センターが出会った家庭のうち日本人配偶者をもつ世帯は5%にとどまりました。日本語のレベルも高くなく、85%が非正規雇用であり不安定な雇用で生活困窮に陥っている家庭もあり、母子家庭も25%に上っていました。日本語ができない親と暮らす子どもたちは「言葉の壁」だけでなく、社会からも孤立してしまう可能性があります。学校に行けなかったために、就職ができず、相談もできず、支援を受けられないまま、孤立してしまった例もあり、その負のループを断ち切るためには、学齢期の子どもたちのサポートが不可欠であると私たちは考えています。

本事業は活動1年目にして外国人保護者だけでなく、地域を巻き込みながら活動を進めており、地域で子どもたちを見守る体制づくりの構築を進めています。国籍、文化、言語を越えてすべての子どもたちが将来輝ける社会を目指して…。どうぞ応援よろしく願いいたします。

【団体名】

特定非営利活動法人 長野県NPOセンター

【URL】

<http://www.npo-nagano.org/>

【申請事業名】

信州全域の学習支援ボランティア養成・ネットワークづくり支援事業

【メッセージ】

この度は、活動助成に採択いただき、深く感謝を申し上げます。

長野県においても、学習機会が不十分であることで、将来に希望を見出せない子ども達がおります。当センターでは、平成28年度より県の委託事業として子どもの居場所づくりを行ってきました。各回10～15名ほどの子どもたちが集まり、一緒に勉強をしたり食事をしたり、晴れた日には外で鬼ごっこをしたりして過ごしています。

こうした活動を県内各地で実現するためには、協力してくれる大人の存在が欠かせません。しかし、支援者となる担い手が不足しているのが現状です。そこで、本助成金によって、担い手の掘り起し・養成・ネットワークづくりの3点を進めていきます。

「学習支援」というと、参加へのハードルが高いと感じている層へのアプローチは特に重要だと考えています。支援を必要とする子どもの中には、学習をきっかけに大人と話をしたいといった思いを持った子どももいるため、現場の生の状況を伝えながら、より広い範囲で担い手の掘り起しを行っていきます。

同時に、支援者同士のつながりをつくり、活動の中での悩みや不安などを話し合う場や、コーチングや指導法について学ぶ場をつくることで充実した活動が行われることを目指します。

今後とも皆様のお力添えを賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

【団体名】

HUG for ALL

【URL】

<http://hugforall.strikingly.com/>

【申請事業名】

児童養護施設の「養育・教育の質」改善事業

タブレット教材を用いた学習支援とボランティアとの関係性構築事業

【メッセージ】

児童養護施設は「終わりのある家」です。だからこそ、いわゆる「一般の家庭」よりも、自立することに対して、強いプレッシャー、社会的な責任を負っています。

しかし、現在の多くの児童養護施設は、そのような社会の願い、子どもたちへの自立の願いを十分に、健やかに、叶えることが難しい状況にあります。そこにはシンプルでない、単一でない、様々な構造の課題があるのですが、決して解きほぐせない訳ではないと私たちは考えています。いや、そこに一人でも子どもが存在し、また子どもと向き合う大人がいるのであれば、解きほぐされなくてはいけないのです。

昨今、一般家庭出身者と児童養護施設出身者のその後の進路や生涯年収など様々な比較がされ、そこには有意な差が出てしまっています。しかし、そんな現状は打破し、どんな調査をしても有意な差が見られない、見つけることができない、そんな社会を私たちは目指しています。

また児童養護、社会的養護には多くの税金が投入されています。皆さまからいただきましたご寄付は、いただいたその金額そのものだけでなく、すでに使われている税金に対しても影響を与え、子どものために使われる社会の資源全体をより効果的・効率的にしていくことにも繋げて参ります。

今後とも、応援よろしくお願い致します。

【団体名】

特定非営利活動法人 場とつながりの研究センター

【URL】

<http://batotsunagari.net/>

【申請事業名】

地域が育てる、子どもの自己肯定感を育む「居場所」機能を持った
まちの寺子屋運営と、その持続可能を目指した支援事業

【メッセージ】

「貧困」とは、「貧」しくて「困」っている、と書きます。貧乏の解消はなかなか難しいかもしれませんが、子どもや家族が何に困っているのかは1個1個聞くことができるかもしれません。そして、困りごとを知ることができれば、解決に向かうような一歩目が踏み出せるかもしれません。

私たちは、「困りごとに出会える」のは「地域」であるという思いから、地域の子どもを地域で支えるしくみづくりを目指しています。学校や家庭だけで子どもを支えることが難しくなっている現在だからこそ、それらとは異なる第三の居場所「サードプレイス」を地域が生み出していく必要があります。そこは、さまざまな価値観をもった多様な「大人」との出会いがある場です。そのような大人との出会いを通して、子どもたちは困ったときに頼ってよい誰かがいること、に気づくことができるのではないのでしょうか。そのような「助けてコミュニケーション力」を育てるのも、また地域の役割です。

ベネッセこども基金さんから3年目の助成をいただくことになりました。このことは、一般的に考えられることではなく、大きな責任感を感じています。地元の三田市での取り組みはもちろんのこと、私たちが経験してきたものを多くの方々にも広げていくこと、そして、そのような仲間をつないでいくことを意識して取り組んでまいります。

私たち一人ひとりには微力かもしれないが、決して無力ではありません。地域のゆるやかなネットワークづくりを通して、未来に向けたアクションを生んでいきたいと考えています。応援どうぞよろしく願いいたします。

【団体名】

認定特定非営利活動法人 浜松NPOネットワークセンター

【URL】

<http://www.n-pocket.jp/>

ブログ「ぽけっとのなかみ」 <http://npocket.hamazo.tv/>

【申請事業名】

はままつ子どもの学び支援&セーフティネット強化事業

【メッセージ】

今回選ばれたことは大変ありがたく、深く感謝すると同時に、責任も感じて身が引き締まる思いです。

2016年から約半年間、取り組んできた学習支援では、手ごたえと課題が多々ありました。経済的困難だけでなく、複数の困難を抱える子どもたちに、どのように寄り添うのか？自己肯定感やモチベーションをどのように上げたらよいか？目標やゴールはどこにおくか？学校や地域、行政との連携をすすめるには？

この課題は、単に経済的困窮の子どもへの支援に限らず、制度にのらない子どもたちを地域社会で支える「新しい共助の形」、子どもや子育てを見守る地域力が試されていると捉えています。

今後は、研修を重ねて支援者のスキルアップと共有理解を図ると同時に、支援者・理解者を増やし、連携していくことで、子どもをとりまくセーフティネットを強化していきたいと思えます。

【団体名】

一般財団法人 ヒューマンライツ協会

【URL】

<http://www.human-ref.jp/>

【申請事業名】

高校中退者等の再チャレンジ支援事業

【メッセージ】

来年度については、主な担当者の変更もあり、これまでの事業を行いつつ、高校を中退した生徒だけを対象にするのではなく、地元中学校区で行われている要保護児童地域対策協議会と連携して小・中学校の時代から様々な問題を抱え、大幅な遅刻や週に1日、2日しか学校に来ないなど、基本的な生活習慣が出来ていない生徒等も対象に関係性を構築するためのアウトリーチ活動も行い、高校中退防止や学習支援、相談活動に幅を広げる活動を進めてきます。この活動を通じて実績を積み上げる事により、何か見えてくるものがあると感じています。

【団体名】

認定特定非営利活動法人 フードバンク山梨

【URL】

<http://fbyamana.fbmatch.net/>

【申請事業名】

困窮する子ども達への学習支援と食料支援の新たな支援モデル構築事業

【メッセージ】

この度は、助成先として採択して頂き、心より感謝申し上げます。

平成20年10月に設立されたフードバンク山梨は、安全に食べられるのに、箱が壊れたり印字が薄くなったりして販売できない食品を、企業などから寄贈してもらい、必要としている施設や団体、困窮世帯に無償で提供するフードバンク活動をしています。この活動では、「食のセーフティネット 山梨モデル」として、行政・社会福祉協議会・教育機関等の49の団体と連携し、市民が参加する「フードドライブ」（一般家庭からの食品の寄付活動）を通して、地域づくりに貢献しています。

私たちは、平成27年8月から「フードバンクこども支援プロジェクト」に取り組んでいます。次世代への子どもの貧困を阻止するため、困窮する世帯を対象に、給食が無い期間の食料支援と対面指導による学習習慣の獲得・学力向上を支援します。プロジェクトを進めるにあたり、山梨県内で初めて、中央市と市・教育委員会・フードバンク山梨の三者による「子どもの貧困対策連携協定」を締結し、その後、笛吹市とも締結しています。

今回、新たに活動の輪を都留市に広げることが、助成事業により可能になりました。

取り組み① 学習会と保護者への相談支援を実施

市内に学習会場を用意し、隔週1回週末に個別指導方式で行います。また、管理スタッフが子どもの日常生活や学校生活上の悩み・将来の進路等について保護者の相談に対応し、必要に応じて担当部署やSSWにつなげます。

取り組み② 給食の無い夏休み・冬休み期間中に、無償の食料支援を実施

利用申込に小中学校を加え、教育機関との連携により新たな困窮する子どもを把握する体制を作ります。夏5回・冬1回、周囲にわからない様に宅配便等で食品箱を自宅へ送付します。

フードバンク山梨は、地域に埋もれている潜在的な「子どものいる困窮世帯」を把握し、地域社会と連携した欠食防止及び学習支援体制の構築を推進していきます。活動の様子は、フェイスブック (<https://www.facebook.com/foodbank.yamanashi>) でも発信しますので、ご覧ください。どうぞよろしくお願い致します。



【団体名】

特定非営利活動法人 まちの塾フリービー

【URL】

<http://www.freebee.cc/>

【申請事業名】

貧困連鎖ストップ！高校中退防止夢プログラム

【メッセージ】

この度は3期目となる助成金を賜り、心から感謝申し上げます。

2年前にこの基金によってスタートした高校生中退防止への支援は、おかげさまで現在の所属者数は22名、今年度は、内7名が就労・進学、15名が進級し、高校生全員が4月から再び新しいスタートを切ることができました。

学習意欲の低下には、家庭・学校・本人の発達状況等様々な原因があり、解決のためには多面的な支援が必要なのだ実感しています。地域の学習指導者の支援を受けて学習意欲を取り戻し、就労や進学に向かって頑張っている姿がある一方で、高校中退後、社会とのつながりを失ってしまう子どもたちも少なくありません。今後更に地域の支援ネットワークの中で互いに協力しながら、より多くの子どもたちを支える必要性を感じています。

3年間の助成を賜った成果として、高校中退防止の重要性と支援の有効性を広めると同時に、団体の運営基盤を整備し来年度以降の活動の継続・拡大を目指して尽力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

【団体名】

一般社団法人 みらいTALK

【URL】

<http://miraitalkhamamatsu.hamazo.tv/>

【申請事業名】

生活困窮家庭学習支援事業

【メッセージ】

当法人は障がいの有無や家庭環境に関わらず、浜松市及び近隣の地域に住む全ての子どもにとってより良い未来、地域社会を築くことを目的として、子どもに関わる多職種（医師、保健師、臨床心理士、保育士、弁護士、社会福祉士など）が集まり、以下4つの事業活動を行っています。

- （1）子どもに関わるあらゆる人々をつなげるネットワークづくり
- （2）障害もしくは生活困窮等により支援を要する子どもと家族を学習支援などを通して支援する事業
- （3）障害もしくは生活困窮等により支援を要する子どもと家族の実態を調査し、課題を明らかにする事業
- （4）障害もしくは生活困窮等により支援を要する子どもと家族を取り巻く状況・課題に関する啓発事業

当法人のメンバーが業務の中で、1人の不登校の中学生と出会い、彼の不登校の背景に生活困窮があることが明らかになりました。学習意欲を失い、高校進学希望がありながらも諦めていた彼に、大学生を学習ボランティアかつ人生の良きモデルとして派遣し、無事に高校受験を乗り切ることが出来ました。しかし、制服を始めとする学用品の準備と言う大きなハードルが新たに立ち上がり、さらに高校入学の席に母が参列するためのスーツなども整えるという経済的負担が大きいのしかかって来ました。子どもたちには、教育を受ける権利がありますが、その権利が様々な要因によって保障されないために、生活困窮から脱却することが困難になっています。この中学生と出会い、他にも多くの子どもたちが同じような境遇に置かれていることに気づきました。

そうした環境に置かれた子ども達の学習機会・場を増やすために、平成28年度からベネッセ子ども基金の助成を基に当法人では、浜松市中区で学習支援事業を立ち上げました。スクールソーシャルワーカー（SSW）やメディカルソーシャルワーカー（MSW）、学生ボランティア、社会人ボランティアなどの協力を得て、アウトリーチ型（家庭訪問型）と通所型（塾型）の学習支援を週1回行なっています。開始から半年足らずで毎回10人前後の子ども達が参加してくれるようになりました。学生ボランティアと一緒に学習し、会話し、夕食を食べることで、初めは勉強に苦手意識があった子ども達も、今では、毎週学習支援を楽しみにしてくれており、笑顔で通ってくれるようになりました。

ある日一人の中学生が自分でタクシーを呼んで学習支援の場に来てくれました。今まで何とか送迎してくれていた保護者が家におらず、その子が自分自身で考えた結果の行動でした。その行動力とどうしても通いたいという強い想いに驚きつつ、もう一つの課題に気づかされました。浜松市は公共交通機関が限られている地域であり、保護者の理解・協力が得られない家庭、あるいは一人親家庭で保護者が遅くまで働きに出ている家庭の子ども達が学習支援の場にアクセスできない状況にあります。そうした子ども達にも学習支援の場を届けられるように、今年度は送迎の強化とアウトリーチの強化を予定しています。また今後はさらに私たちの専門性を活かした活動、他団体への後方支援なども模索していきます。

当法人は小さな団体で、皆兼業のため私たちだけでは力不足です。学生ボランティアや一般ボランティアの方々、そして地域の他の団体の協力を得て、これからも子ども達のために活動していきます。今後とも皆様のご支援を賜れますよう、宜しく願い申し上げます。

【団体名】

特定非営利活動法人 ユースコミュニティ

【URL】

<https://youthcommunity.jimdo.com/>

【申請事業名】

経済的困難を抱える高校生の学習支援事業

【メッセージ】

子どもの貧困が社会問題として認知される中、行政・企業・地域から様々な支援策が立ち上がりつつあります。

そうした支援策をもってしても、子どもたちの取り巻く環境に明るい未来があるとはまだ素直に言えないところもありますが、ここまで活動をやってこれたのは、ベネッセさんを含め、みなさんのご協力と温かいご支援のおかげです。一層の飛躍に向けて、まずは私たちのやれること、やるべきことを精一杯やっけていこうと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。